

豊かな環境と便利さを兼ね備え、 人が集まるまち「東金」



両総用水事業推進協議会会長
東金市長 志賀直温

東金市は、東京都心まで約50km、千葉県ほぼ中央部に位置し、九十九里地域の中核都市として発展してまいりました。

人口は約6万人、温暖な気候に恵まれ、平野部は両総用水事業の恩恵により、良質な田園地帯が太平洋に向かって広がり、丘陵地は山武杉の森林に覆われています。

古くは400年前の1614年に、徳川家康が鷹狩りに来訪するための「御成街道」が完成し、この地に宿場町と近隣の農産物が集まる問屋街が形成されました。以降、東金は物流の集散地としてにぎわうようになり、九十九里地域の中核都市として発展してきました。

現在では、国道126号線と千葉東金有料道路、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)をつなぐ交通の要衝となっております。平成26年4月には圏央道の東金・木更津間が開通し、北方向では、平成27年6月に茨城方面から大栄JCまでの延伸が完了しております。今後は、松尾横芝・大栄間に取り組むとのことから、成田までの早期完成を願うとともに、東京都内を通らずに茨城県以北にアクセスする環状道路としての機能に期待をしております。

また、地域の皆様から大きな期待が寄せられている「地域医療の充実」を図るため、九十九里町とともに、千葉県、千葉大学医学部及び附属病院の協力連携のもと、三次救急機能を備えた「東千葉メディカルセンター」を平成26年4月に開院しました。

さらに、農産物等の直売所、植木や鉢花等の圃場での販売、地元農産物を使用したレストラン、情報発信コーナー等を備えた産業交流拠点施設「みのりの郷東金」も同年4月にオープンいたしました。この施設が販売チャンネルの一つとなり、農産物の生産振興や農業者の経営安定に資するよう努めているところでございます。なお、今年の11月7日からは、「道の駅」としての供用を開始し、市内及び近隣市町をはじめ、県外からも多くの方々にお越しいただき、大変にぎわっております。

米価の下落や後継者不足、TPP合意による影響など、農業を取巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、国営両総農業水利事業の完了を契機に、先人の多大なる尽力により成し遂げられた両総用水の恩恵を最大限に生かし、農業経営基盤、生産基盤の改善により一層努めてまいりたいと考えております。

現在、「東金市第3次総合計画」の総仕上げともいえるべき第4期基本計画を策定しております。先般策定いたしました本市の「人口ビジョン」及び「総合戦略」を反映し、不断の努力により受け継がれてきたこのまちを、住む人が誇りに感じ、いつまでも住み続けたいと思えるまちとして、未来の子どもたちへ継承できるよう全力で取り組んでまいります。



産業交流拠点施設「みのりの郷東金」